

国士舘大学大学院入学試験問題用紙

博士課程

| 研究科 | 専攻 | 試験科目 | 参考書等持込 |
|--------|-------|------|--------|
| 政治学研究科 | 政治学専攻 | 日本語 | 語学辞書 可 |

【問題Ⅱ】

次の文章を読み、下の設問に答えなさい。解答は、解答用紙に書くこと。

著作権の関係上、具体的な文章は過去問題上公開いたしません。
次の出典ページを参考にしてください。

(出典：待鳥聡史『政治改革再考』新潮選書、2020年。出題のため文章を一部省略・改変した。)

【設問】

1. 下線部 a について、著者が指摘する「三つの見方」を、文中から3つ、それぞれ抜き出ささい。
2. 下線部 b について、二大政党制のメリットとデメリットについて、それぞれ簡潔に説明しなさい。
3. 設問1で解答した「三つの見方」について、それぞれ簡単に説明しなさい。
4. 下線部 c について、文中の言葉を用いて簡単に説明しなさい。
5. 下線部 d および下線部 f が指す内容について、文中からそれぞれ抜き出ささい。
6. 下線部 e の読みは「ついきゅう」だが、同音異義語が多数ある。「追及」で合っている場合は○を、誤っている場合は正しい漢字を書きなさい。
7. 下線部 g について、文中の言葉を用いて簡単に説明しなさい。
8. 著者が指摘した政治改革に関する「三つの見方」について、どの立場がもっとも政治改革を適切に説明しているか。あるいは、全て適切ではないと考えるか。「三つの見方」をそれぞれ比較して根拠を示しながら、自分の考えを論述しなさい。

| | |
|----|---------|
| 1. | |
| | |
| 2. | (メリット) |
| | (デメリット) |
| 3. | |
| | |
| 4. | |
| | |
| 5. | d. |
| | f. |
| 6. | |
| | |
| 7. | |
| | |
| 8. | |
| | |

↓
(8. 用紙が足りない場合は裏面へ)

令和8年度 国土舘大学大学院入学試験

出題の意図と採点のポイント

| | |
|-------|---------------|
| 研究科名 | 政治学研究科 政治学専攻 |
| 試験期別 | Ⅲ期 |
| 試験区分 | 一般選考 |
| 試験科目名 | 日本語(博士課程) 問題Ⅱ |

■出題の意図

- ① 1990年代の日本における政治改革の動向、および新自由主義 (Neoliberalism) や二大政党制といった政治学の基本概念について理解し、適切に説明できること。
- ② 政治学に関する日本語文献を読解できること。
- ③ 日本語の基本的な文法について理解していること。

■採点のポイント

別紙

別紙

【採点のポイント（R 8 III期・博士課程日本語・問題II）】

1. ①「熱病論」、②「新自由主義論」、③「平成デモクラシー論」
2. （メリット）政権交代が起こりやすく政治に緊張感が与えられる、多数派を形成しやすく安定した政権運営が可能になる、など
（デメリット）死票が多く少数意見が政治に反映しづらい、政権交代が起きたとしても政策選択の幅が狭くなる、など
3. ① 改革は一種のブームに過ぎず、十分な理論的根拠がなかったため、効果が乏しかった。
② 政治改革とは新自由主義に基づく社会経済を実現する手段であった。
③ 広範囲にわたる政治改革を一連の動きとして把握し、それが新しい日本政治のあり方の基本構造を作った。
4. 社会経済的課題に対する政府の解決能力を疑問視し、市場や民間セクターの力によって課題を解決することをめざし、個人の自己決定と自己責任を重視する主張。
5. d. 日本政治の「新右派的転換」（または）新自由主義化のさらなる推進
f. 広範囲にわたる政治改革
6. 追求
7. 冷戦の終結や「新中間大衆」と呼ばれた都市ホワイトカラー中間層の増大と、そうした変化に対して政府の応答能力が低下したこと。
8. 【採点のポイント】
 - a) 「三つの見方」をそれぞれ比較して論じているか
 - b) 根拠を明確に示しているか
 - c) 論理的か明確に自説が論じられているか